

Citation: Deacon SA, Glenny A-M, Deery C, Robinson PG, Heanue M, Walmsley AD, Shaw WC. Different powered toothbrushes for plaque control and gingival health. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 12. Art. No.: CD004971. DOI: 10.1002/14651858.CD004971.pub2

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 25 March 2011

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 12; Updated

背景: 電動歯ブラシは1960年代にはじめて市販の装置が紹介された。最近のシステムティック・レビューでは、ある種の電動歯ブラシは歯垢と歯肉炎の減少において電動ではない歯ブラシよりも優れていることを示唆している。そのレビューでは電動歯ブラシの他のタイプとの比較はされてはいない。

目的: 電動歯ブラシの違う種類を歯垢減少と歯肉の健康に関して比較することである。評価された他の因子は歯石、着色除去、価格、信頼性、副作用である。

検索戦略: 以下のデータベースを調査した。Cochrane Oral Health Group's Trials Register(2010年7月26日まで)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(The Cochrane Library 2010, issue 3)、MEDLINE via Ovid((1950年から2010年7月26日まで)、EMBASE via Ovid(1980年から2010年7月26日まで)、CINAHL via EBSCO(1982年から2010年7月26日まで)。出版言語の制限は設定しなかった。

選択基準: 試験は以下の基準により包含された: 参加者のランダム割り付け、参加者には手の運動障害が存在しないこと、少なくとも4週間は電動歯ブラシ使用法の指導がないこと。一次アウトカムは電動歯ブラシを試験期間使用後の歯垢と歯肉炎の点数とした。

データ収集と分析: データの抽出は独立して2回行なった。可能な限り、試験の著者には欠測データを問い合わせた。それぞれのメタ分析の効果測定はランダム効果モデルを用いた95%信頼区間を示した標準化平均差により行なった。考えられるデータ不均質の原因が考慮された。

主な結果: このレビューは17の試験における1369人の参加者のデータを包含している。7つの試験からの3か月以内のエビデンスは、回転式電動歯ブラシが横方向に振動する電動歯ブラシよりも、歯垢(標準化平均差 0.24; 95%信頼区間 0.02, 0.46)と歯肉炎(標準化平均差 0.35; 95%信頼区間 0.04, 0.74)を減少することに不明であること、あるいはバイアスの危険性が高いことを示している。試験の不足により、1種類の電動歯ブラシがその他のものよりも優れていることに関する決定的な結論は得られなかった。副作用は小さく、短期的なものしか報告されていなかった。電動歯ブラシの費用と信頼性は報告されていなかった。

レビューアの結論: 短期間の調査では回転式電動歯ブラシは横方向の振動式電動歯ブラシよりも歯垢と歯肉炎を減少するといういくつかのエビデンスがある。ただし、その差は小さく、臨床的重要性は不明である。ある種の電動歯ブラシが他の種類よりも有効であることを評価するための質の高い更なる試験が必要とされている。

(翻訳 松香芳三・監訳 窪木拓男; JCOHR)

翻訳公開日: 2011年12月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。